

● 構成メンバー

低侵襲医療研究室は、当院の外科系各診療科(整形外科 外科 泌尿器科 眼科 皮膚科 心臓血管外科 小児外科 耳鼻咽喉科 産婦人科 腎移植外科 脳神経外科 麻酔科 呼吸器外科)で構成されている。

● 活動状況

1. 当研究室では内視鏡手術の専門医(日本内視鏡外科学会技術認定取得者)を多数配し、安全・安心な内視鏡手術の実践に努めている。
2. さらに、手術機材の工夫・手術材料の選択等により、患者さんへの負担の少ない医療を実現している。
3. 当研究室は、近隣地域からの受診にとどまらず県内・県外から多数の患者さんが受診し、地域医療のみならず所属している学会を主導している診療科も複数科あり、活発な研究活動を行っている。論文、学会報告等は各診療科ページを参照されたいが、2021年に整形外科塩田医師が第15回日本コンピュータ支援整形外科研究会(CAOS)を開催することが決定したことを報告しておく。
4. 低侵襲手術例は具体的には泌尿器科が内視鏡手術件数年間約100例、胸部外科が胸腔鏡手術年間約120例、一般外科が内視鏡年間307例と産婦人科が年間約20例行っている。心臓血管外科も胸腔鏡を用いて小開胸下に弁膜症、冠動脈手術が年間約10例行われている。小児外科は胸腔鏡3例、腹腔鏡(後を含め)89例、膀胱鏡20例の合計112例であった。整形外科では内視鏡ヘルニア摘出術が年間約110例、ナビゲーションシステム脊椎手術が約40例、骨盤輪損傷に対するコンピューター補助によるナビゲーションシステム内固定術が約20例行われている。このように、当室の診療科は「外保連(外科系学会社会保険委員会連合)手術指数」による手術技術度の高い手術を多く行うことにより、当院がDPCⅡ群病院であることに大きく貢献をしている。
5. 当研究室に配分されている年間の総予算額の約344万円を、診療科の実績やニーズに合わせながら適宜適切に分割し使用している。

● 研究業績

当院の各診療科のページや診療科独自のホームページをご参照ください。